

**CASBEE-新築(簡易版)2010年版**  
倉庫A棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2011  
■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.8)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.4</b>	0.15	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 騒音</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	-	
2 防振対策				-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>				<b>4.2</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		出入口へ準防音ドア(SAT)を採用している		5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	4.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	5.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
<b>1.3 吸音</b>				<b>3.0</b>	0.20	3.0	-	
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.5</b>	0.35	-	-	<b>3.5</b>
<b>2.1 室温制御</b>				<b>3.5</b>	1.00	-	-	
1 室温				3.0	0.38	5.0	-	
2 負荷変動・過渡制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能		屋根:二重折板(熱貫流率:0.6W/m2・K)を採用している		5.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-	
5 湿度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>				-	-	3.0	-	
<b>2.3 空調方式</b>				-	-	3.0	-	
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.1</b>	0.25	-	-	<b>2.1</b>
<b>3.1 屋光利用</b>				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 屋光率				3.0	0.60	5.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 屋光利用設備				3.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 グレア対策</b>				<b>1.0</b>	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 屋光制御				1.0	1.00	3.0	-	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
<b>3.3 照度</b>				<b>1.0</b>	0.15	3.0	-	
<b>3.4 照明制御</b>				<b>3.0</b>	0.25	3.0	-	
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.3</b>	0.25	-	-	<b>4.3</b>
<b>4.1 発生源対策</b>				<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		室内仕上り材は告示対象外を全面に採用している		5.0	1.00	4.0	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レンボボロ対策				-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>				<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.50	5.0	-	
2 自然換気性能				-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		床面より離れた位置(高さ:約5.0m)に設置している		5.0	0.50	5.0	-	
4 給気制御				-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	1.00	-	-	
2 喫煙の制御				-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 機能性</b>				<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>				-	-	-	-	
1 広さ・収納性				-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画				-	-	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 広さ感・景観				-	-	3.0	-	
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	1.00	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>				<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		屋根・外壁は耐候性・耐汚染性に優れた材料を採用している		5.0	1.00	-	-	
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.3</b>	0.31	-	-	<b>3.3</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>				<b>3.0</b>	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>				<b>3.7</b>	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		ガルバリウム鋼板(耐用年数40年)を採用している		5.0	0.29	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床コンクリート(耐用年数30年)を採用している		5.0	0.12	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		換気ダクトは全数SUSダクトを採用している		5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		盤類(耐用年数25年)を採用している		4.0	0.29	-	-	

2.4 信頼性			3.3	0.19			
1	空調・換気設備		3.0	0.33			
2	給排水・衛生設備		-	-			
3	電気設備	ポータブル発電機を備えている	4.0	0.33			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.33			
5	通信・情報設備		-	-			
3 対応性・更新性			4.3	0.29			4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31			
1	階高のゆとり	梁下有効高さ7.0m以上	5.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ	282m+104.3m/3,978m <sup>2</sup> =0.097	5.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり		倉庫:3,900N/m <sup>2</sup>	4.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性			4.2	0.38			
1	空調配管の更新性		-	-			
2	給排水管の更新性		-	-			
3	電気配線の更新性	ケーブルラック・架空配線を採用しており、更新上全く問題なし	5.0	0.20			
4	通信配線の更新性		-	-			
5	設備機器の更新性	ルート上全く問題なし	5.0	0.40			
6	バックアップスペース		3.0	0.40			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40			3.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮		接道側・隣地側へ植栽を計画している	5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30			3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-			3.7
LR1 エネルギー			-	0.40			4.0
1 建物の熱負荷抑制							
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化		全てLED照明器具を採用している	5.0	0.43			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=77.7%	5.0				
集合住宅の評価							
4 効率的運用			3.5	0.29			3.5
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制	維持管理について取り決められたものがある	4.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			3.6
1 水資源保護			3.0	0.15			3.0
1.1 節水			-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	1.00			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00			
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-			
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.63			3.5
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.21			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		再生骨材の路盤材利用	3.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げは主にビス固定、設備は露出配線・配管と計画して	5.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.6	0.22			4.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		全て☆☆☆☆、ノンアスベスト材を採用している	4.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避			5.0	0.68			
1	消火剤		-	-			
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材を使用していない(グラスウール)	5.0	1.00			
3	冷媒		-	-			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.5
1 地球温暖化への配慮			3.8	0.33			3.8
2 地域環境への配慮			3.5	0.33			3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25			
1	雨水排水負荷低減		-	-			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33			
3	交通負荷抑制	前面道路へ滞留しないように駐車スペースを確保している	4.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-			
1	騒音		-	-			
2	振動		-	-			
3	悪臭		-	-			
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.67			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制		3.0	-			
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			3.7	0.33			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない	4.0	0.70			
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			